



火入れ式で点火スイッチを押す茶谷市長(右から3人目)ら関係者＝24日、七尾市吉田町

脱炭素社会の一翼担う

七尾市ごみ処理施設で火入れ式

来々4月本格運用

七尾市が同市吉田町のななかりサイクルセンター敷地内で建設していた新ごみ処理施設が完成し、安全を祈願する「火入れ式」が24日行われた。今後、試運転や外構工事を経て2023年4月の本格運用を予定しており、関係者約40人が脱炭素社会の一翼を担う施設の完工を心待ちにした。

式では、茶谷義隆市長が式辞、来賓の宮下為幸中能登町長、佐藤喜典市議会議長、笹川広美町議会議長が祝辞を述べた。施工者を代表して荏原環境プラントの甲斐正之氏があいさつした。茶谷市長らがスイッチを押し、焼却炉に点火した。

ごみ処理施設は24時間連続運転のストーカ式焼却炉2基を備え、1日当たりの処理能力は70トン。中能登町から排出されるごみも受け入れる。事業方式はDBO(設計・建設・運営)で、設計・施工者は荏原・真柄・戸田組特定建設工事共同企業体。設計・施工監理は中央設計技術研究所が担当。特別目的会社(SPC)「ななおEサービス」が20年間の運営・維持管理を担う。